



「暑さ寒さも彼岸まで」のことわざどおり朝夕めっきりと涼しくなり、ずいぶん過ごしやすくなってきました。今年の夏も暑い日が続きましたが、南管内では暑さにも負けず、各地域で魅力的な実践が行われました。それぞれの実践では参加した子どもたちの笑顔が見られ、活動を満喫している様子が伝わってきました。

夏休み子ども教室より



この教室は、パイプオルガンのある学校として有名な大川西根小学校で行われました。参加者はオルガニストの香取智子先生によるワークショップで「音の響き」を体感し、オルガン制作者であるマチュー・ガルニエさんからはパイプオルガンの仕組みを学んだ後、パイプオルガンの演奏を楽しんでいました。小学生にもパイプオルガンを演奏できる機会を与えている大仙市の取組は、とても魅力的です。会の運営を支えていたスタッフの方々の表情も柔らかく、会場は濃厚な響きに包まれていました。



< 7 / 26 わくわく体験教室 (大仙市) >



雄物川子ども教室では、2回シリーズの工作「恐竜の卵づくり」に取り組んでいました。膨らませた風船に水で濡らした新聞紙をのりで貼り、しっかり固めた後、色を塗って模様を付けていくことで完成する恐竜の卵。子どもたちは初め、新聞紙を小さく裂いたり、風船にのりで貼ったりする活動に慣れない手つきで取り組んでいましたが、次第に要領よくコツをつかんで作業していました。和気藹々とした雰囲気の中、次第にできあがっていく恐竜の卵づくり。完成した作品を見てみたいですね。

< 8 / 17 雄物川子ども教室 (横手市) >

羽後子ども司書養成講座 8/22



羽後町立図書館が主催するこの講座は、図書館の役割や司書の仕事を子どもたちが学び、体験を通して読書の楽しさや大切さを友達や家庭に広く伝えていく「子ども読書活動推進リーダー (子ども司書)」の養成を図ることを目指しています。第6回目となる今回は、参加者9名がカウンター業務や本の配架整理の他、おすすめの本を紹介するポップづくりも体験しました。

館長の原田真裕美さんにお話を伺ったところ、「受講している子どもたちは、初めはもじもじしていても、体験を重ねることで自信をもって行動するようになっていく。」と話されていました。この講座は、県内では羽後町だけの取組であり、この講座をきっかけにますます本を好きになって欲しいし、読書の楽しさを周りに伝えてくれれば良いと話される原田館長の言葉からも、読書推進に町ぐるみで取り組む職員の方々の思いが伝わってきました。

この講座には、羽後町以外からの参加者もいて、読書が好きでたまらないといった表情で話をしてくれる人もいました。夏休み最後の土曜日、お父さんと一緒に読書を楽しんでいる家族もいて、読書の輪がますます広がって欲しいと思ったひとときでした。



- ◇ 貸出や返却の手順を覚えるのは難しかったが、職員の方々は素早くやっていてすごいと思った。
 - ◇ 読んでみたいと思える本に出会えるのが楽しい。お客さんに声をかけてもらってうれしかった。
 - ◇ 将来は、司書の仕事を通して人の役に立ちたい。気に入った本をたくさん紹介したい。
- * この取組については、美の国あきたネットの「行動人」でも紹介されています。

地域で支える子育て

湯沢市 ブックスタート 8/4

湯沢市では、7か月健診時に合わせて、ブックスタートを行っています。当日は20組の親子が参加していました。保育士さんによる絵本の読み聞かせの場では、食い入るように絵本を見つめたり、リズムカルな音の響きに反応して笑ったりする様子も見られ、見守るお母さんの笑顔もほほえましいものでした。親子で絵本の扉を開く楽しさを体験し、図書館職員やボランティアの方々によって温かいメッセージが伝えられるこの取組は、幼少時からの読書習慣につながっていくのでしょうか。「私たちも幸せな気持ちになります。」と話してくれた担当の保健師さんの言葉も心に残りました。



東成瀬村 「親子で楽しむリズム遊び」 8/25



東成瀬村では、毎週様々な内容の「子育て講座」が計画されており、音楽療法士の日沼郁子先生による「リズム講座」は、2か月に1回行われているそうです。

日沼先生は、赤ちゃん一人一人の名前を呼びながら歌いかけ、音楽に合わせて鈴や太鼓を自由にたたかせながら、赤ちゃんの反応をやさしく見守り、温かい言葉をかけていました。お母さん方も歌に合わせて赤ちゃんと一緒に体を動かしたり、手拍子を打ったりしながら活動を楽しみ、会場は終始、笑い声に包まれていました。

講座の内容は、子育て支援チームで話し合いながら決めていたとのことでしたが、初めての育児に戸惑うお母さん方にとっては、さぞ心強いより所となっているのでしょうか。「ここに来れば同級生となる子どもと一緒に活動できるし、お母さん方も知り合いになれるから楽しい。」と話す若いお母さんの言葉からも、子育てにやさしい地域全体の取組であることが分かりました。



県南ブックコミュニティー交流学習会 7/12



県南ブックコミュニティーは、「みんなが先生 みんなが生徒」の合い言葉のもと、県南地区で読書推進に関わるボランティアの方々によって昨年度組織された団体です。今年度の交流学習会は、「子どもたちとともに、『読書』を広げよう！」というテーマのもと、横手市で行われました。

前半は、6人の読み手がそれぞれのテーマに合わせて選んだ絵本の読み聞かせや、ブックトークのテーマに合わせてどんな本を選び、どうシナリオを作っていくか等についての発表がありました。後半は、この発表を受けて3つのグループに分かれて話し合い、参加者は各自の実践を紹介したりそれぞれの悩みや課題を出し合ったりしながら、交流を深めていました。ブックトークのグループではブックトークのとらえ方や本の選び方、シナリオができあがっていくまでの過程を発表者から聞くことで、参加者それぞれが具体的なイメージを膨らませていました。「子どもの心をどうつなげていくかが大事」と語る発表者の力強い言葉を受け、参加者が今後どのように各自の実践を広げていくか、大いに期待したいと思います。子どもたちに本との素敵な出会いを紹介して下さるボランティアの方々の、ますますの御活躍をお祈りしております。

